

北海道における濃厚飼料用国産とうもろこしの生産状況

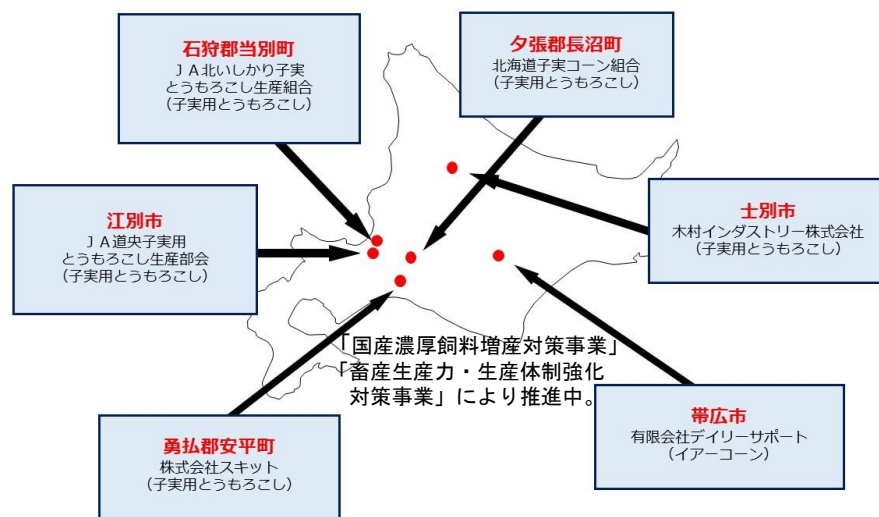
○輸入飼料への過度な依存から脱却するため、国産飼料に立脚した畜産への転換の推進が必要となる中、北海道においては、輪作作物の一つとして関心が高まりつつある子実用とうもろこしの生産・利用の拡大が課題。

○このため、子実用とうもろこしなどの生産・利用拡大を図るため、モデル実証に必要な収穫専用機械の導入などを支援。

○子実用とうもろこしの生産は、①面積当たりの労働時間が少なく、労働生産性が高いこと、②輪作作物の生産向上に寄与すること、③耕種農家の所有機械でも作業が可能であるなどのメリットから、北海道における栽培面積は増加傾向で推移。

○濃厚飼料用国産とうもろこし

の生産・利用実証実施地区(令和2～4年度)



子実用とうもろこし

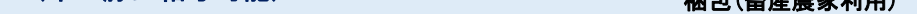
とうもろこしの子実のみ
を収穫・乾燥
(牛・豚・鶏に給与可能)



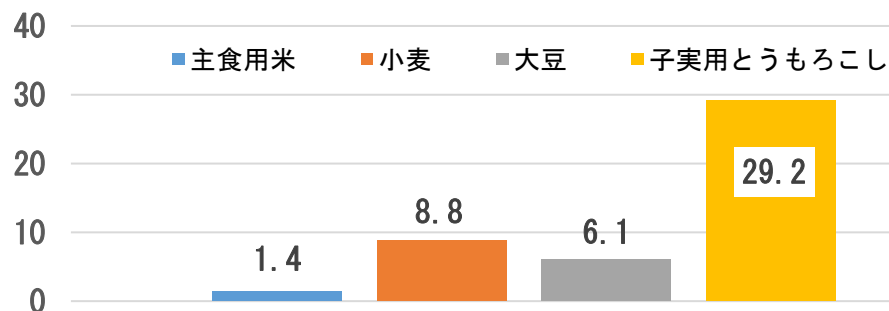
播種

イアーコーンサイレージ

とうもろこしの実を外皮
ごと収穫し、子実・芯・
外皮をサイレージ化
(牛・豚に給与可能)

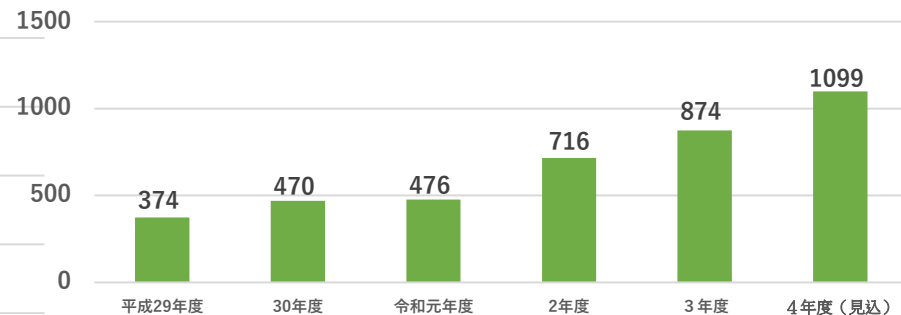


○子実用とうもろこしの労働時間当たりの所得(千円/時間)



資料：令和3年1月、農水省「水田フル活用による野菜・果樹、子実用とうもろこしの生産拡大」

○北海道における濃厚飼料用国産とうもろこしの栽培面積(ha)



注：北海道庁の調査から推計。イアーコーンサイレージの栽培面積を含む。
また、実証を行う重点地区以外の取組を含む。